

編集後記

もっと早い時期に発行を予定し、執筆担当の先生方よりかなり前に原稿をお預りしながら、編集者の不手際で大幅に刊行が遅れました事、深くお詫び申します。

ところで、昨年7月、別府大学では學術調査団を中国に派遣し、数々の業績を上げて帰国しました。この調査団には、史学研究会会長賀川光夫教授が団長として、さらに東洋史が専門の林章教授も参加され、主として敦煌において歴史学・考古学及び美術史等の見地から石窟内の仏像や仏画に対する実地調査を行ないましたが、その成果の一端を本号で賀川教授に代表して御発表いただいた次第です。

さて、今回出来るだけ新氣軸を打ち出そうと努め、フィールド・ノートや新刊紹介を取り入れました。次号ではさらに多くの方々に御寄稿をお願いし、より充実した紙面にとはり切っています。水温む候、第12号をお届け致します。